

## 川野夏橙の果実形質に関する研究

(第5報) 採収適期について

山 津 憲 治

(佐賀県果樹試験場)

YAMATSU, K.

Studies on Fruit Characteristics of Kawano Natsudaidai

*(Citrus Natsudaidai HAYATA)*

V. Proper Time of Harvesting

川野夏橙の採収時期は、産地によりまた諸般の事情によりかなり異なっているのが現状である。そこで本県における品質より見た採収適期について調査を行った。

## 1. 材料および方法

佐賀県東松浦郡呼子町加部島・玄武岩土壌・昭和47年度8年生樹・果実肥大調査用3樹、果実分析用10樹を供試した。昭和47年より3ヵ年毎年11月より翌年4月まで15~30日おきに1樹3果10樹について1果毎に分析した。

## 2. 結果および考察

(1) 果実肥大は、年度により差異を認めた。第一次肥大は、11月下旬に停止し1~2月は殆んど横ばいする年(48年度産)、12月旬度に停止し1~2月にはマイナスになる年(49年度産)、第一次肥大停止がなく1~2月も僅かに肥大する年(47年度産)の3つに分れた。第二次肥大が盛んになるのは、果皮で2月以降、果肉では3月中旬以降であり果肉より果皮で優る。

(2) Brix は、3ヵ年とも1月・4月は殆んど同じであり、いずれの年でも最高値は2月下旬であった。暖冬で肥大停止のなかった47年度産は2月の上昇が殆んどなかった。

(3) 酸は、12月下旬には年次間差は少ないが12月以降減酸速度が著しく異なり暖冬の47年度産では減酸が急であり、低温の年はゆるやかな減酸で4月中旬までは年次間差が大きく4月下旬には年次間差が小さくなる。

(4) 果皮色の値は、Brix とよく似ており、1月中旬までは著しい速度で赤味を増し2月下旬に最高値を示す。3月にははいり第二次肥大とともにしだいに退色していく。退色は陽光面で著しい。49年度産は、8月乾燥の影響で遅れたと思われる。

(5) 以上より川野夏橙の採収適期は、果皮色a値を目安にすればよいと思われその適期は2月下旬と考えられる。

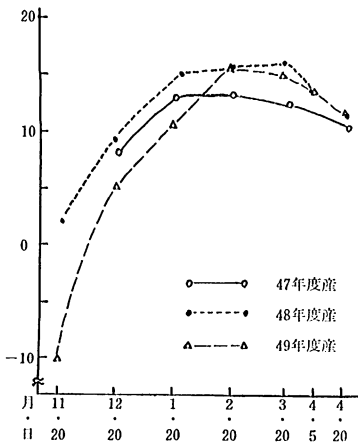


図 1 果皮色 a 値 (赤色部)

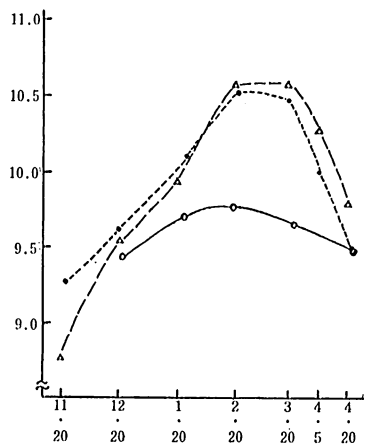


図 2 Brix (20°C)

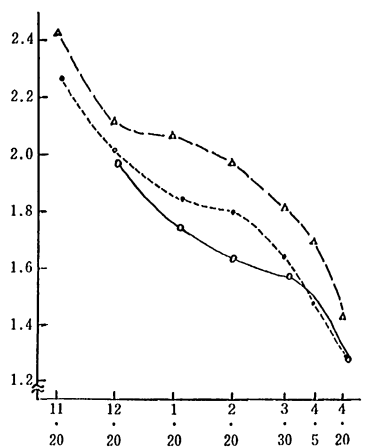


図 3 酸